

有田焼創業 400 年事業 「ARITA 400project」 国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」出展支援報告

浜野 貴晴、蒲地 伸明、松本 奈緒子
佐賀県窯業技術センター

有田焼創業 400 年事業において、欧州の市場開拓と世界でのリブランディングを目指す「ARITA 400project」では、パリで年 2 回開催される国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に 2014 年からブースを構え、2016 年 1 月に 3 年連続の出展を果たした。佐賀県窯業技術センターでは、1 回目の出展からプロジェクトの出展支援・開発支援を行ってきた。参加事業者は 3 回の出展を通してビジネスや商品開発に関して多くのことを学び今後へとつながる成果となった。

“ARITA 400project” The report of supporting for exhibition

Takaharu HAMANO, Nobuaki KAMOCHI, Naoko MATSUMOTO
Saga Ceramics Research Laboratory

Maison & Objet, the world's largest international interior and design trade fair, is held in Paris twice a year. The three-year ARITA 400project for opening the European market and global rebranding first set up its booth in 2014 and in January 2016. We have continued to support to exhibit and develop the product from first exhibition. Members of this project learned a lot about business and creating through 3 times exhibition and it became the result to lead for the future.

1. 3 回目のメゾン・エ・オブジェ出展

有田焼創業 400 年事業の一大プロジェクトである ARITA 400project は、2016 年 1 月 22 日から 26 日までの 5 日間開催された「メゾン・エ・オブジェ パリ 2016」に 3 回目の出展を果たした。毎年 1 月と 9 月にフランス パリにて年 2 回開催される世界最大級のインテリアやデザインなどの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」は、世界中から家具、装飾品、テーブルウェアなどを扱う 3,000 社余りが出展し、80,000 人を超える業界関係者が来場するライフスタイルの世界的なトレンド発信源である。

3 回目の出展では、2014 年 9 月展、2015 年 9 月展と過去 2 回の出展で得た経験と海外での評価をもとに、その集大成として 400 点におよぶ商品や作品で臨んだ。昨年 11 月のパリ同時多発テロの影響もあり、来場者は例年よりも若干少なかった。また入場時の手荷物検査など厳戒態勢の元での開催であったなど、過去 2 回とは異なった部分もあったが、会期中は来場者と感度の高い商談が数多

く交わされた。



図 1 Arita ブースの外観。



図 2 レセプションでスピーチをする山口知事。

初日に開催した佐賀県主催のレセプションでは、山口祥義 佐賀県知事も来場し、400 年の歴史を振り返りながら、今なお挑戦し進化を続ける有田焼をアピールした。「最近、ARITA の名前をよく聞く。皆、いいイメージで捉えており、ブランディングが進んでいる」といったメディアからの声や、「伝統を残しつつ、新たなものに挑戦している姿がよくわかる」といったバイヤーの声など、高く評価されていた。高級品を扱う世界的なブランドからの長期的な取引に発展しそうな引き合いもあり、海外での市場開拓に向けた新たな一歩として、着実な成果を上げてきている。



図3 ブース内の様子。



図4 来場者と活発なやりとり。

2. トップクリエイターとのコラボレーションによる特別展示

今回の出展では、当プロジェクトのプロデューサーである奥山清行氏に加え、ビートたけし氏、隈研吾氏、佐藤可士和氏という日本を代表するトップクリエイター3 名が、参加 8 事業者とのコラボレーションによって特別に制作した ARITA の作品の特別展示も行われた。制作においては

技術的に難しいデザインも数多くあり、当センターもデジタルデザイン技術などによる支援を行った。展示会2日目に特別展示ブース前で開催されたカンファレンスには、山口祥義 佐賀県知事、奥山清行氏、佐藤可士和氏が登壇した。今回のプロジェクトの目指す姿や作品の意図についてスピーチを行った。来場者からは、海外でも名高いゲストクリエイターとのコラボ作品に対して「どのデザインもエレガントで美しい」といった声が数多く上がり、注目を集める展示となった。

会場での発表にあたり、ゲストクリエイター3 氏からのコメントを以下に紹介する。

ビートたけし氏(コメディアン/映画監督)

「作品を見た人がそれぞれに何か感じてもらえればそれでいいと思う。異素材の日本の伝統工芸が組み合わせさったら？こんな形の磁器があったら面白いのではないかな？そういった思いつくままの発想で絵を描いてみた。たくさん描いた絵を有田の皆さんが見て、絵から感じたままに形にしてもらった。それぞれの事業者の捉え方が作品に出てくるのが面白い。」



図5 ビートたけし氏 × 畑萬陶苑 の開発商品。

隈研吾氏(建築家)

「作品名は、『波』。土にどこまで軽い表情を持たせられるかが課題であった。シェル状の器をフレームの集合体に置換し、器に軽やかさを与えることを目指した。今回デザインした器は、その実現に当たってかなり技術的に難しい

ものであったと思うが、コンピュータをベースとした最新技術と、伝統に裏付けられた高い技量が実現に導いてくれた。有田は、長い伝統を持ちながら、常にそれを超える挑戦をしている。」

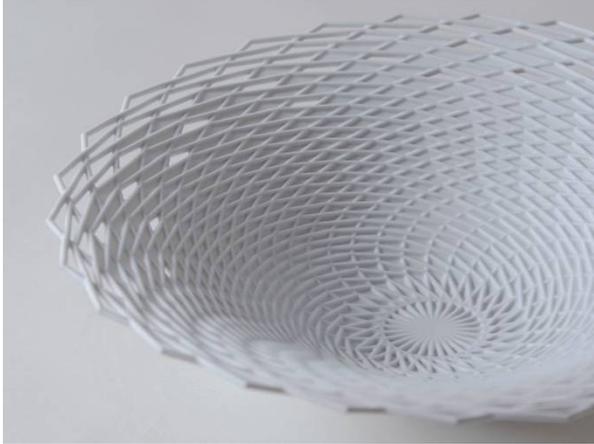


図6 隈研吾氏 × 李荘窯業所 の開発商品.

佐藤可士和氏(アートディレクター/クリエイティブディレクター)

「13 の作品群からなる一連のコンセプトは『Dissimilar(差違)』。革新と伝統、偶然と必然、過去と未来、混沌と清寂、永遠と束の間など相反する要素を内包した。今回のコラボレーションにあたっては、有田焼の持つ歴史、伝統、特徴的な技法や色を活かしながら、力強くも繊細で、インパクトのある仕上がりとなるよう、デザイン・バイ・アクシデントとデザイン・バイ・ロジックの相反する方法を取り入れた。」



図7 佐藤可士和氏 × キハラ の開発商品.

3. これまでの出展で得た成果と今後の展開

海外での展示会では、継続して出展していることが信頼につながり、商談へ導くと言われ、一度きりでの出展では、ブランドを覚えてもらうことすら難しい。ARITA 400projectでは3年にわたり出展を重ね、商品や作品を通じて参加事業者が自らのものづくりについて来場者に語り続けてきたことで、回を重ねるごとに来場者の反応に変化が現れていた。初回には有田焼を初めて目にしたという来場者も多かったが、2回目、3回目となると、前回見た商品を目的にバイヤーが早々に取引条件を話し始めるという状況がみられ、来場者の認知度の高まりが着実に商談へと結びついた。

参加事業者も、来場者からのダイレクトな反応を吸収し、パリの地で発表するに適した商品とは何かを考え、過去にとらわれず新しい商品開発を行ってきた。さらに、商品を理解してもらい、覚えてもらうための資料づくり、事後の応対へと繋げるコンタクトシートの改良などの努力も重ねてきた。それらは、実質的な売上という成果に加え、海外へ出展して自らの商品を売り込み、帰国後の対応から受注へとつなげた経験という大きな成果となった。

今後、ARITA 400projectでは、首都圏および佐賀県内での帰国展も企画しており、さらなる成果の広がりを期待している。

参考

- 1) 有田焼創業400年事業ウェブサイト
ARITA EPISODE2 (<http://arita-episode2.jp/>)